

『認知症介護実践者研修標準テキスト』正誤表

『認知症介護実践者研修標準テキスト』におきまして誤りがございました。ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

訂正箇所	誤	正
4 頁・所属	国立 <u>開発</u> 研究法人	国立 <u>研究</u> 開発法人
17 頁・表 1-1	目的： <u>可能な限り住み慣れた地域で認知症の人が生活を継続するためには、介護する家族の支援は欠かせない。本科目では、介護保険施設・事業所の職員として、必要な視点を理解し、多角的かつ具体的な支援方法について実践できるようになることを目指す。</u>	目的： <u>権利擁護の観点から、認知症の人にとって適切なケアを理解し、自分自身の現状のケアを見直すとともに、身体拘束や高齢者虐待の防止の意識を深める。</u>
25 頁・28 行目	認知症の <u>人</u> をなにも分からない	認知症の <u>人</u> がなにも分からない
27 頁・4 行目	高齢者保健福祉 10 年戦略	高齢者保健福祉 <u>推進</u> 10 年戦略
27 頁・20 行目	1994 年の <u>高齢者保健福祉 5 年計画（新ゴールドプラン）</u> では	1994 年には <u>ゴールドプランの見直しが行われ、新ゴールドプランとして</u>
28 頁・24 行目	<u>2000</u> 年に策定された	<u>1999</u> 年に策定された
29 頁・23 行目	「第 20 回会議」	「第 20 回 <u>国際</u> 会議」
32 頁・表 1-3	「第 20 回会議」	「第 20 回 <u>国際</u> 会議」
74 頁・表 1-8 軽度認知障害の B	（すなわち、 <u>最低限</u> 、請求書を支払う、内服薬を管理するなどの複雑な手段的日常生活動作に <u>援助を必要とする</u> ）。	（すなわち、請求書を支払う、内服薬を管理するなどの複雑な手段的日常生活動作は <u>保たれるが、以前より大きな努力、代償的方略、または工夫が必要であるかもしれない</u> ）。
82 頁・26 行目	ほかの 3 つでも <u>同様である</u>	ほかの 3 つでは「 <u>アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制</u> 」となっている
95 頁・8 行目	階段を降りるように進行する <u>場合が多い</u>	階段を降りるように進行する <u>場合もある</u>
95 頁・23～25 行目	レビー小体が溜まっていくため、 <u>大脳と脳幹の神経細胞の脱落と、側頭葉と後頭葉の萎縮が特徴的である</u>	レビー小体が <u>見られ</u> 、大脳と脳幹の神経細胞が <u>脱落する</u>
122 頁・21 行目	<u>(3)</u> 高齢者のいる世帯の実態	<u>(1)</u> 高齢者のいる世帯の実態
144 頁・4 行目	もしくは市町村長	もしくは市町村長 <u>等</u>
153 頁・2 行目	<u>半数弱</u>	<u>約半数</u>
164 頁・8 行目	<u>憎悪</u>	<u>増悪</u>

訂正箇所	誤	正
165 頁・12～13 行目	高齢者の福祉施設は、1950 年の「生活保護法」によって「養護老人ホーム」「特別養護老人ホーム」「軽費老人ホーム」「有料老人ホーム」の 4 つに細分化された。	高齢者の居住型の福祉施設は、1963 年の「老人福祉法」の制定によって、「養護老人ホーム」「特別養護老人ホーム」「軽費老人ホーム」の 3 種類の老人福祉施設および届出制の「有料老人ホーム」が規定された。
165 頁・19 行目	多床室が主流となっていた (図 1-42) が、1990 年から 2000 年にかけて個室化・ユニット化が徐々に進んだ。	多床室が主流となっていた (図 1-42)。(後半削除)
177 頁・16 行目	キャプション評価表	キャプション評価法
202 頁・11 行目	約 40%	約 21%
225 頁・4 行目	短期記憶障害	近時記憶障害
228 頁・15 行目	前頭側頭型認知症の人は	とりわけ行動障害型前頭側頭型認知症の人は
233 頁・30 行目	短期記憶障害	近時記憶障害
253 頁・5 行目	頻度×重症度で表され (1～12 点), 10 項目で合計 1～120 点となる	頻度×重症度で表され (0～12 点), 10 項目で合計 0～120 点となる
256 頁・13 行目	短期記憶	近時記憶
261 頁・11 行目	当然生じやすくなり	生じやすくなり
262 頁・9 行目	アイデンティティ	自尊心
273 頁・4 行目	アイデンティティ	自尊心
287 頁・14～16 行目	アパシー状態はレビー小体型認知症以外の原因疾患すべてに生じやすく、抑うつ状態は前頭側頭型認知症以外の原因疾患で多くみられる傾向がある。	アパシー状態や抑うつ状態はすべての原因疾患でみられる傾向がある。
287 頁・21 行目	短期記憶	近時記憶
292 頁・3 行目	長期記憶	遠隔記憶
293 頁・図 2-17	即時記憶, 短期記憶, 長期記憶	即時記憶, 近時記憶, 遠隔記憶
322 頁・21 行目	QOL としてとらえようとしている (表 2-18) 42).	QOL としてとらえようとしている (表 2-18) 43).
323 頁・演習	短期記憶	近時記憶
324 頁・18 行目	短期記憶	近時記憶
325 頁・5 行目	短期記憶	近時記憶
378 頁・索引	短期記憶障害	近時記憶障害